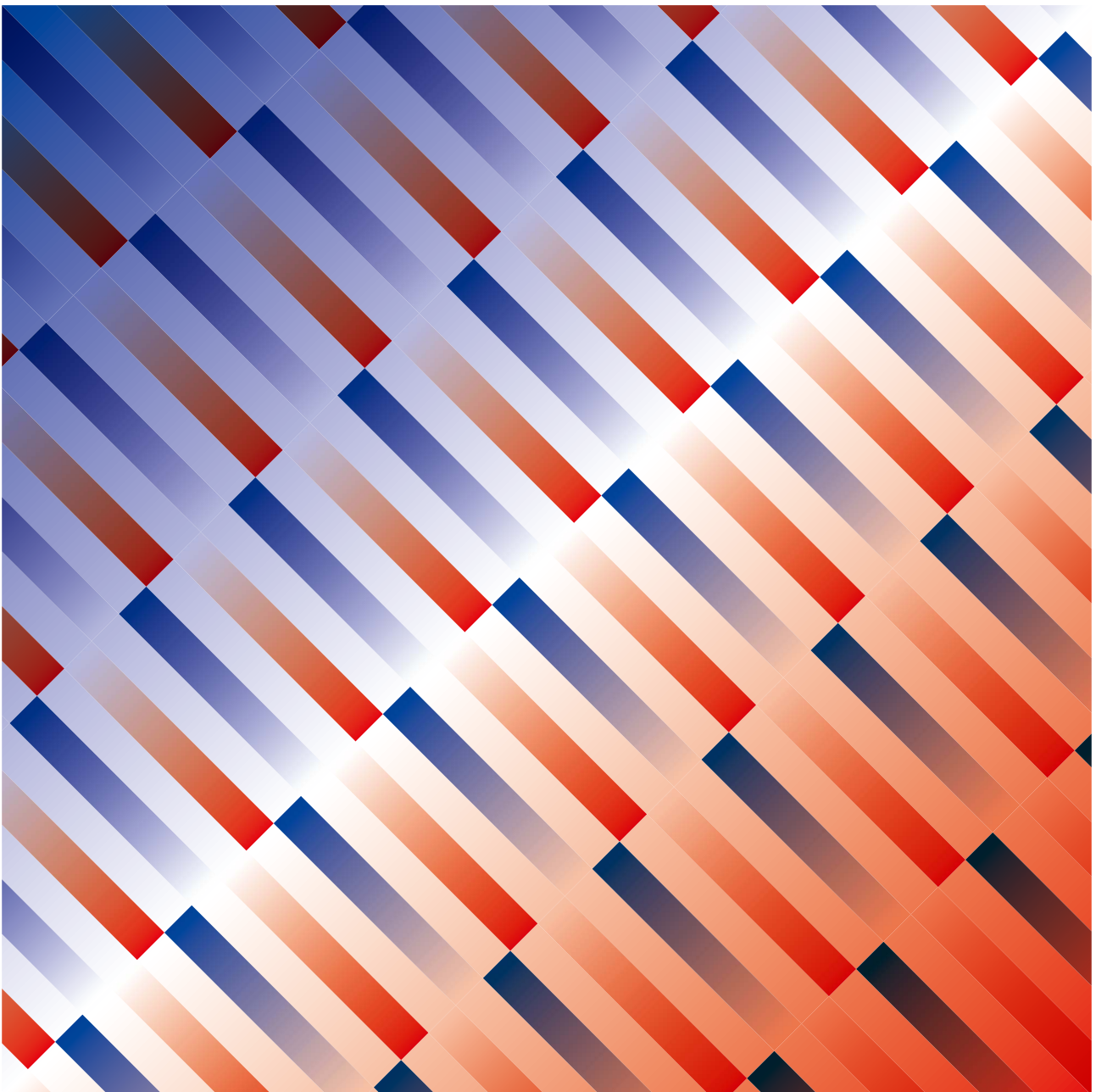


Japan Inclusive Football Federation

ANNUAL REPORT 2022

一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
年次報告書 2022



サッカーなら、 どんな障害も 超えられる。

日本の人口の7.6%は障がい者です。

その障がいは多様で、

ひとつとして同じ在り方はありません。

障がいがあっても、いつでも、どこでも、

サッカーを心から楽しめる環境を。

社会にある“障害”を超えていく

きっかけづくりも、サッカーならできる。

私たちはそう信じて、活動しています。



© UCHIDA Kazutoshi



CONTENTS

3 会長あいさつ

TOPICS 01

4 パートナー企業各社による 障がい者サッカーの活用が加速

TOPICS 02

6 全国障がい者サッカー連携会議 地域主導で都道府県内の組織づくりを推進

TOPICS 03

7 JIFF設立後初の 障がい者サッカー日本代表新カテゴリー創設

8 2022年度事業報告

11 2023年度事業計画

12 JIFFパートナー制度

13 パートナー／支援団体／助成団体一覧

14 JIFF概要

15 財務報告

本連盟が設立され8年目を迎えました。7つの障がい者サッカーの発展、JFAをはじめとするサッカーファミリーとの連携はさらに深まり、共生社会実現へ向けた活動は着実に前進しています。

障がい者サッカー日本代表の 新カテゴリー創設

新型コロナウイルスの影響を受けていた7つの障がい者サッカー団体の大会・イベント等の開催が戻り、国際大会・国際親善試合も多数行われました。世界的に女子のカテゴリーの普及・強化の取り組みが進んでおり、日本でも2022年11月に14カテゴリー目の障がい者サッカー日

本代表チームとして「知的障がい者サッカー女子日本代表」が新設されました。

誰もが、いつでも、どこでも、 サッカーを身近に楽しめる環境整備

障がい者の日常を変えるべくスポーツ庁と連携し進めてきた障がい者サッカー連携会議によるネットワーク構築は地域主導の方針を継続しています。障がい種別を越えて、都道府県内の障がい者サッカー全体を推進する組織や会議体は35都道府県まで増え、インクルーシブな場づくり、指導者養成、チームづくりなど、地域の普及状況に応じた活動が推進されています。



サッカーから 共生社会の実現を

一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟 会長
北澤豪

教育・研修プログラムの充実

小中学校向けに「インクルーシブ教育プログラム」の提供を2022年4月から開始し、障がい者サッカーで培われる強みを活かした障害理解や多様性への気づきを促す体験型授業を子ども達に届けました。企業向けには障害の社会モデルや障害者差別解消法などの基礎知識のほか、

それぞれの障害特性と接遇について学び行動変容を促す「eラーニング研修」の提供を新たに開始しています。

今後も、7つの障がい者サッカーとサッカーファミリーおよびスポーツ界との連携を深め、共生社会実現に向けて活動してまいります。益々のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)では、企業向けにこれまでも障がい者サッカー大会観戦、イベントボランティア参加、体験型の対面による研修プログラム等を実施してきましたが、コロナ禍を経てオンラインと対面の良い面を活用し、多様なプログラム展開に発展しています。



多様性の理解を促進する セミナーでの活用 体験型としての強みを発揮

社内外におけるダイバーシティ&インクルージョンの推進、サステナビリティの取り組みや浸透施策の一環で障がい者サッカーを活用いただいておりますが、オンラインと現場のハイブリット型でのプログラムの実施により、学びの深い体験型で広く届けられています。



特に職場における合理的配慮はどのようなものがありますか

障がい特性と接遇を学ぶ eラーニング 研修プログラム導入が加速

アライアンスパートナーである公益財団法人日本ケアフィット共育機構の監修によりeラーニング研修プログラム「サッカーを通じた障害理解」(全70分)を開発し、2022年4月よりパートナー企業による導入が開始されています。障害の社会モデルや障害者差別解消法についての基礎知識、それぞれの障がい特性と接遇を学ぶもので、障がい者サッカーの現場における知見・経験から職場に活かせる工夫のエピソードも交えて紹介しており、社内のダイバーシティ&インクルージョンの推進、人材育成としての活用いただいております。

思いやりを学び、工夫を実践 教育プログラムをご家族向けに提供

2022年4月より障がい者サッカー選手との「対話」と「体験」を通じて思いやりを学び、工夫を実践しながら学ぶインクルーシブ教育プログラムを、小中学生向けに提供開始しています。2022年度は92件実施しました。その授業をパートナー企業で働く従業員のご家族向けに「夏休み宿題応援プログラム」として通常の体験プログラムに障がい者サッカー新聞づくりを加えた特別版として提供し、好評いただいております。



パートナー企業同士の連携を強化 連携会議を発足

3年ぶりに対面で開催された対面によるパートナー報告会を契機に本連盟のパートナー企業同士の連携が進み、継続した連携機会と新たな取り組みの創出を目指した「JIFFパートナー連携会議」が2022年11月に発足しました。パートナー企業各社で、社内外のダイバーシティ&インクルージョンの推進、人材育成、地域社会への貢献等、異なる目的や位置付けで障がい者サッカーを活用

いただいておりますが、それらの取り組み内容や好事例を共有していくことで、パートナー企業同士のネットワーク構築と共に新たな知見の習得、更なる障がい者サッカー活動の推進をはかっていきます。また、障がいに関する国際デー等に合わせて年間を通してJIFFおよびパートナー企業が連携し、啓蒙活動および新たな取り組みの創出に取り組んでいます。

全国障がい者サッカー連携会議
地域主導で都道府県内の
組織づくりを推進

02 TOPICS



全国障がい者サッカー連携会議

[実施期間] 2023年1月29日(日)
[実施方法] オンライン(zoomを利用)
[参加対象者] JFA、JIFF、都道府県サッカー協会および地域
サッカー協会の障がい者サッカー担当者、障がい者サッカー
7競技団体、その他関係団体
[参加人数] 73名

障がい種別を越えて障がい者サッカー全体を管轄する
組織や会議体が35都道府県で設置

日本障がい者サッカー連盟(JIFF)は、日本サッカー協会(JFA)と協働し、2019年度からスポーツ庁委託事業として「9地域障がい者サッカー連携会議」を全国9地域(北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)で開催してきました。

この会議は、誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境づくりを目指し、各都道府県

における障がい者サッカーネットワークの構築および地域に応じた障がい者サッカー活動の推進をするもので、2022年度は組織づくりにテーマを絞り、名称を「全国障がい者サッカー連携会議」に変更してオンラインで開催しました。取り組みを積み重ねることで、障がい種別を越えて、都道府県内の障がい者サッカー全体を推進する組織や会議体は35都道府県まで増えました。

都道府県内の連携を推進する組織または会議体

地域	都道府県	都道府県サッカー協会内の組織	都道府県サッカー協会外の組織または会議体	
北海道	北海道	チャレンジ委員会		
	東北	青森県	キッズ委員会が管轄	
		宮城県	グラスルーツ委員会	
関東	秋田県	事業委員会が管轄		
	茨城県	インクルーシブ委員会		
	栃木県	グラスルーツ委員会		
	埼玉県		埼玉県障がい者サッカーネットワーク協議会	
	東京都		東京都インクルーシブ連携会議	
	神奈川県	女子部会が管轄	組織化を計画中	
	北信越	長野県	グラスルーツ委員会	
新潟県		インクルーシブ委員会	パラサッカー連絡協議会	
富山県		障がい者サッカー担当委員会		
石川県		グラスルーツ委員会	FA主導の連携会議	
福井県		グラスルーツ委員会		
東海	静岡県	チャレンジ委員会		
	愛知県		FA主導の障がい者サッカーチーム会議	
	岐阜県	技術委員会グラスルーツ普及部		
関西	滋賀県	インクルーシブ委員会		
	京都府		連携会議開催予定(2023年)	
	大阪府	障がい者サッカー部会		
	兵庫県	障がい者サッカープロジェクト	FA主導の障がい者サッカーチーム会議	
中国	鳥取県	技術委員会 普及部会内 障がい者サッカー推進ミーティング		
	岡山県		岡山県障がい者サッカー連携会議	
	広島県		広島県インクルーシブフットボール連盟	
四国	山口県	インクルーシブ委員会		
	四国	インクルーシブ委員会		
	香川県	インクルーシブ委員会		
	徳島県	インクルーシブ委員会		
	愛媛県	インクルーシブ委員会		
九州	高知県	インクルーシブ委員会		
	佐賀県	パラサッカー委員会		
	長崎県	きらめき部会		
	熊本県	チャレンジ委員会		
	大分県	パラ委員会	大分県障がい者サッカー協会	
	鹿児島県	インクルーシブ委員会	インクルーシブ連携会議	
沖縄県	障害者サッカー特別委員会	沖縄障がい者サッカー連盟		

2023年1月時点

03 TOPICS

JIFF設立後初の
障がい者サッカー日本代表新カテゴリ創設



© UCHIDA Kazutoshi

「知的障がい者サッカー女子日本代表」新設により
障がい者サッカー日本代表は14カテゴリーに

2022年11月、一般社団法人日本障がい者サッカー連盟(JIFF)の社員である特定非営利活動法人日本知的障がい者サッカー連盟(JFFID)が「知的障がい者サッカー女子日本代表」を新設しました。7つの障がい者サッカー競技団体が編成する障がい者サッカー日本代表が新設されるのはJIFF設立後初めてで、計14カテゴリーとなりました。

JIFFは7つの障がい者サッカー競技団体と共に2016年4月に設立され、翌年2017年6月に社員である各競技団体が編成する13カテゴリーの障がい者サッカー日本代表チームのユニフォームを統一しました。その後、世界的に女子のカテゴリーの普及・強化の取り組みが進んでおり、日本でも取り組んできました。

JFFIDによる女子知的障がい者サッカーの取り組みは、2018年度に女子サッカー教室を開始し、2019年度には女子トレセンが初開催されました。コロナ禍による中断期間を経て2021年度より活動を再開し、2022年度はナショナルトレセン、関東トレセンを実施しました。女子選手のみによるチームは全国に1チームで、ほとんどの選手は男子選手と一緒にプレーを行っている状況で

したが、JFFID女子委員会を中心に女子選手の活動の場を全国に広める取り組みを続けてきており、2023年1月の「スペシャルオリンピックス UAE女子ユニファイド*フットボールチーム」の来日に合わせて新設に至りました。

*ユニファイドサッカーを含むユニファイドスポーツ®は、知的障がいのある人(アスリート)と知的障がいのない人(パートナー)がチームメイトとなり一緒にスポーツをする、スペシャルオリンピックの取り組みです。

障がい者サッカー日本代表
14カテゴリー

アンパティサッカー日本代表
CPサッカー日本代表
ソーシャルフットボール日本代表
知的障がい者サッカー男子日本代表
知的障がい者サッカー女子日本代表 NEW
知的障がい者フットサル日本代表
電動車椅子サッカー日本代表
ブラインドサッカー男子日本代表
ブラインドサッカー女子日本代表
ロービジョンフットサル日本代表
ろう者(デフ)サッカー男子日本代表
ろう者(デフ)サッカー女子日本代表
ろう者(デフ)フットサル男子日本代表
ろう者(デフ)フットサル女子日本代表



© UCHIDA Kazutoshi

2022年度は、新型コロナウイルスの影響を受けていた本連盟の社員である障がい者サッカー7競技団体が主催する大会等の開催が戻り、国際大会・国際親善試合も多数行われました。本連盟主催事業も対面とオンラインを併用し、インクルーシブフットボールフェスタ、各種指導者講習会等を継続して開催できました。また、それらの取り組みを推進すべく取り組んできた都道府県内での組織づくりは順調に進み、障がい種別を越えた障がい者サッカー全体を推進する組織や会議体のある地域は、35都道府県に増えました。

新たに事業化した小中学校向け教育プログラムは、92授業実施し、2,915名の小中学生に届けることができました。企業向けのeラーニング研修プログラムは、パートナー企業およびJIFF登録指導者への提供を開始し、608名の方が受講しました。

本連盟のパートナー企業同士の連携も進んでおり、継続した連携機会と新たな取り組みの創出を目指し、2022年11月に「JIFFパートナー連携会議」を発足しました。

組織基盤強化事業 1

JIFFパートナー制度の充実

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、広くサッカーを通じて、障がい者と健常者が混ざり合う共生社会を築いていくためのパートナー制度を運用しました。JIFFパートナー、賛同パートナー、教育コンテンツ開発パートナーのほか、新たに教育プログラムの事業協賛を設けました。パートナー企業同士の連携も進んでおり、2022年11月に「JIFFパートナー連携会議」を発足しました。

※詳細は本紙4～5頁および12～13頁参照

障がい者サッカーに関する相談窓口の運用

障がい者サッカーに関する様々な相談や問い合わせを受け付け、必要に応じて関係する団体と情報共有しながら、解決に導くように対応しました。主に競技参加や「JIFF指導者登録制度」についての問い合わせなどがありました。

業務時間：月曜日から金曜日の11：00～16：00（祝日は除く）

障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため、障がい者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させました。JIFF事務局内に共同事務局を設置し、オフィス提供のほか、問い合わせ一対対応、郵便物対応、情報整理・発信等に関する業務、JFAハウス利用に関する業務の対応が可能な体制を構築し運用しました。

障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化

体制整備、競技力向上等に関する連携強化可能な体制構築を目指し会議等を開催しました。

各種会議の開催

社員の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議を開催しました。

コミュニケーション推進事業 2

障がい者サッカーの情報収集および発信

- 障がい者サッカーに関する情報収集
- 本連盟ウェブサイト（日本語版・英語版）の運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
- 障がい者サッカー啓発動画の制作 **NEW**
障がい者サッカーの認知拡大を目的として、30秒・60秒の普及啓発動画を制作しました。Jリーグ等のスタジアムビジョン、デジタルサイネージ等で放送がされています。



個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施しました。

- 個人寄付会員制度（JIFFサポート会員）の構築と運用
- キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用
- 寄付型支援自動販売機の設置促進 **NEW**

フットボール連携事業 3

JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカーコース）の修了者に本連盟から「JIFFインクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進しました。2022年度は新規で242名が登録し、累計534名（延べ人数）となりました。

手話通訳費用の補助制度の運用

JFAまたは都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に聴覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用しました。2022年度は1件の制度活用がありました。

「JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2022」の対面・オンライン同時開催

東京都内のJリーグクラブ、Fリーグクラブ、WEリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ、障がい者サッカーチームの協力により実現しました。

【開催日】2022年12月24日（土）

【開催方法】対面・オンライン同時開催

【会場】J-SOCIETY FOOTBALL PARK 多摩（東京都多摩市）

【内容】第1部 障がい者サッカー体験会、まぜこぜウォーキングフットボール 第2部 まぜこぜサッカー、まぜこぜサッカーオンライン

【参加人数】210名



「インクルーシブフットボールフェスタ広島2022」の開催

広島県インクルーシブフットボール連盟主管のもと開催し、広島県サッカー協会およびサンフレッチェ広島（Jリーグ）、広島エフ・ドゥ（Fリーグ）、アンジュヴィオレ広島（なでしこリーグ）、A-pfeile広島（障がい者サッカーチーム）、地元の協賛企業等の協力を得て実現しました。

【開催日】2022年7月26日（火）

【主催】一般社団法人日本障がい者サッカー連盟

【主管】一般社団法人広島県インクルーシブフットボール連盟

【会場】コジマホールディングス中区スポーツセンター（広島県広島市）

【内容】まぜこぜサッカー、まぜこぜウォーキングフットボール、障がい者サッカー体験会（電動車椅子サッカー・フレームフットボール、ブラインドサッカー、デフサッカー、アンブレティサッカー）

【参加人数】延べ171名



まぜこぜウォーキングフットボールの実施（Warm Blueキャンペーンへの参加）

国連の定める自閉症啓発デー（4月2日）に合わせて、自閉症の方だけでなくその他の障がいや難病のある方、LGBTQ+の方など多様な方が混ざり合って楽しみながら普及啓発を行いました。

【事業名】まぜこぜウォーキングフットボール

【実施内容】まぜこぜによるウォーキングフットボール、青いものを身につけてSNSに投稿する「ブルーフォト」、個人のチャレンジを社会貢献に繋げる「キフティング」寄付先（キフティング）：東京都自閉症協会（寄付額 12,210円）

全国障がい者サッカー連携会議のオンライン開催

誰もが、いつでも、どこでもサッカーを楽しめる環境づくりの推進を目的に、2019年度から「9地域障がい者サッカー連携会議」として地域および各都道府県における障がい者サッカーネットワークの構築、および障がい者サッカー活動の推進を行ってききましたが、2022年度は組織づくりにテーマを絞り、名称を「全国障がい者サッカー連携会議」に変更して実施しました。障がい種別を越えて、都道府県内の障がい者サッカー全体を推進する組織や会議体は増えており、35都道府県になりました。

【事業名】全国障がい者サッカー連携会議

【実施期間】2023年1月29日（日）

【実施方法】オンライン（zoomを利用）

【参加対象者】JFA、JIFF、都道府県サッカー協会および地域サッカー協会の障がい者サッカー担当者、障がい者サッカー7競技団体、その他関係団体

【参加人数】73名

※詳細は本紙6頁参照

東京都インクルーシブ連携会議

東京都内のサッカー協会、Jリーグクラブ、Fリーグクラブ、WEリーグクラブ、なでしこリーグクラブ、Jリーグ百年構想クラブ、障がい者サッカーチームの連携を深めるため連携会議を開催しました（計4回）。

【開催日】2022年4月22日（金）、2022年6月9日（木）、2022年10月6日（木）、2023年3月13日（月）

【開催方法】オンライン

【内容】各組織の活動紹介、インクルーシブフットボールフェスタに向けた連携など

2022年度 事業報告

2022年4月1日～2023年3月31日

バルサ財団「FutbolNetメソッド」による障がい者サッカー指導者講習会への協力

スポーツを通して多様な価値観を学び社会に適應できる人材を増やしていくこと、指導者の指導力向上を行うことで障がい児・者のサッカーのプレー環境整備をしていくことを目的に、バルサ財団によるオンライン指導者講習に協力しました。2023年より名称が「SportsNetメソッド」に変更になりました。

【事業名】バルサ財団「FutbolNetメソッド」による指導者講習会実践プログラム（2021年度より継続）

【開催期間】

- 2022年5月15日(日)
@大阪 基礎コース・新規受講者向け
 - 2022年5月18日(水)
@東京 基礎コース・新規受講者向け
 - 2022年5月21日(土)
@東京 基礎コース・新規受講者向け
 - 2022年5月22日(日)
@東京 アドバンスコース・リフレッシュ講習
- 【事業名】バルサ財団「SportNetメソッド」による指導者講習会対面プログラム（2023年版）
- 【開催期間】
- 2023年2月4日(土)
@大阪 基礎コース・新規受講者向け
 - 2023年2月5日(日)
@東京 基礎コース・新規受講者向け
 - 2023年2月12日(土)
@福岡 基礎コース・新規受講者向け



JFAとのハンドブック作成・配布協力

JFAが「Football for All」JFAグラスルーツ宣言の実現、SDGsの取り組みの一環として制作した「JFA審判員向け障がい者サッカーハンドブック」の配布を行いました。

コンテンツ開発事業

4

小・中学校向けオンライン教育プログラムの実施 NEW

2022年度より小・中学校向け教育プログラムの申し込み受付を開始し、オンライン授業（45分）、一部対面授業（90分）を実施しました。ロービジョンプログラム、デフプログラムを実施するとともに、新たにCPサッカー、ソーシャルフットボールのプログラムを開発しました。

【実施授業数】92授業（小学校 82授業／中学校 10授業）

【体験人数】2,915人

eラーニング 研修プログラムの展開

eラーニング研修プログラム「サッカーを通じた障害理解」（全70分）を受講するためのプラットフォームのサービス提供をlearning BOX社より受け、社内でプラットフォームを持たない企業および個人への案内が可能な体制を整えました。それに伴い、パートナー企業への導入が拡大し、JIFF登録指導者による受講も開始しました。

【研修内容】「サッカーを通じた障害理解」全70分
1.障害の社会モデル・障害者差別解消法について
2-1.身体障害者の特性と接し方について
2-2.～障がい者サッカーの現場から
3-1.知的・精神障害者の特性と接し方について
3-2.～障がい者サッカーの現場から
4.エンディング

【受講人数】608名（企業2社・合計510名／JIFF登録指導者98名）

その他

5

パラフットボール財団との国際連携

障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に取り組むパラフットボール財団（オランダ）と連携し、アフィリエイトFA（会員組織）登録を継続しています。また、国連が定める国際障害者デーに合わせパラフットボール財団が開催する「Football For All Weekend」キャンペーン（12月）に参加しました。

2023年度 事業計画

2023年4月1日～2024年3月31日

組織基盤強化事業

1 障がい者サッカーに関する相談窓口

障がい者サッカーに関する様々な相談や問合せを受け付け、必要に応じて関係する団体と情報共有しながら、解決に導くように対応します。

2 障がい者サッカー共同事務局の充実

社員の組織基盤の強化および活動のサポートのため運用をしている障がい者サッカー共同事務局をより活用しやすいよう充実させます。

3 JIFFパートナー制度の充実

JIFFパートナー制度を効果的に運用し、パートナーを拡大することで、事務局運営基盤の強化および社員の活動サポートの原資を確保すると共に、パートナー企業が自社のイベントや社員教育等に障がい者サッカーのプログラムを有効活用できるようにします。

4 コンプライアンスの整備

JIFFと社員で構築したコンプライアンス連携体制を運用し、情報発信、会議、研修の企画実施等で整備を進めます。

5 各種会議の開催

社員の組織基盤強化や組織間の連携を図るための会議等を開催します。

6 障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化

体制整備、競技力向上等に関する連携強化可能な体制を構築します。

コミュニケーション推進事業

1 障がい者サッカーの情報収集および発信

障がい者サッカーの認知度向上のために次のことを実施します。

- 障がい者サッカーに関する情報収集
- 本連盟ウェブサイトの運用およびSNSの活用による情報発信の強化
- JFAの広報ツール（公式サイト、JFAnews等）を通じた情報発信
- デジタルサッカーメディア「ゲキサカ」を通じた広報およびマーケティング支援
- 障がい者サッカー啓発動画による認知拡大

2 個人向け資金調達の充実

ファン獲得のために次のことを実施します。

- 個人の継続寄付会員制度「JIFFサポート会員」の運用
- キフティング（寄付×リフティング）活用の推進
- ポイントや古本を通じた寄付等支援の仕組みの運用
- 寄付型支援自動販売機の設置促進

フットボール連携事業

1 JFA公認指導者に対する障がい者サッカー活動への参加促進

都道府県サッカー協会が開催するリフレッシュ研修会（障がい者サッカー指導コース）の修了者に本連盟から「インクルーシブフットボールコーチ」「JIFF普及リーダー」の登録証を発行し、本連盟から障がい者サッカーの情報を伝えることで、障がい者サッカー活動への参加を促進します。

2 手話通訳費用の補助制度の運用

日本サッカー協会または都道府県サッカー協会あるいはそれらの傘下にある協会/連盟等が主催する指導者養成講習会および審判員養成講習会等に職覚障がい者が不便なく受講できるようにするため、主催者等に対し手話通訳費用を補助する制度を継続して運用します。

3 インクルーシブフットボールフェスタの開催

共生社会の実現のため、障がい者も健常者も混ざり合っってサッカーを楽しむインクルーシブフットボールフェスタを開催します。開催地は東京において継続し、新規での開催にも努めます。さまざまな状況への対応を考慮し、オンラインプログラムの併用も引き続き検討します。

4 全国障がい者サッカー連携会議の開催

各都道府県における障がい者サッカーの連携を更に確かなものにしていくために、JFAとともに現状のニーズに適した形で障がい者サッカー連携会議をオンラインにて開催します。

5 国際デーに合わせた啓発活動の実施

- 4月2日世界自閉症啓発デー「Warm Blueキャンペーン」に参加し、自閉症の方だけでなくその他の障がいや難病のある方、LGBTQ+の方など多様な方が混ざり合っって楽しみながら啓発活動を行います。
- 10月6日世界脳性麻痺の日、10月10日世界メンタルヘルスデーに合わせて、10月上旬にCPサッカーとソーシャルフットボールを中心に多様な方が混ざり合っって楽しめる啓発活動を行います。

コンテンツ開発事業

1 研修プログラムの開発・販売

eラーニングコンテンツを含めた企業向けのオンライン研修プログラムを充実させ、オンライン・対面どちらでも実施可能な体制を構築します。パートナー企業が自社の社員教育やイベント等に障がい者サッカーのプログラムをコロナ禍において有効活用できるようにします。

2 教育プログラムの実施

小・中学校向けにインクルーシブ教育プログラムを行います。小・中学校向けにインクルーシブ教育プログラムを行います。既存のデフサッカー／デフフットサル、ロービジョンフットサル、ソーシャルフットボール、CPサッカーのプログラム以外に、その他の障がい者サッカーを通じたプログラムを開発します。

3 イベント・セミナーの受託

パートナー企業や関係団体による障がい者サッカー等を活用してのイベントやセミナーの事業受託を行います。

その他の事業

1 国際連携の取り組み

パラフットボール財団と協力し障がい者サッカーの国際的な連携と普及・発展に

2 自治体との連携

モデルケースとして東京都港区との連携をはかります。取り組みます。

2023

パートナー／支援団体／助成団体

JIFFの理念・活動に共感いただいた企業と共に、サッカーを通じて共生社会を築いていくため、パートナー制度を設けています。本制度の概要および、2023年3月時点でのパートナー企業、ご支援、助成いただいている団体をご紹介します。

JIFFパートナー制度について

JIFFでは、ご支援・ご協力いただいている法人企業のみならず「パートナー」と呼んでいます。一方的な支援になりがちな障がい者スポーツですが、JIFFとパートナー企業は、JIFFが理念に掲げる「共生社会」を共に創り上げていく仲間です。

障がいについて学ぶ機会や障がい者サッカーを通じて、ダイバーシティ&インクルージョンの大切さに気づく場の創出を目指し、JIFFパートナー企業向けに障がい者サッカーの体験・研修・講演のプログラムを実施しています。



2022年度 JIFFパートナー／支援団体 主な掲載実績

7つの障がい者サッカー競技団体の全国大会やJIFFのイベント等において、JIFFパートナーや支援団体のロゴが入った横断幕の掲示や、大会プログラム等へのロゴ掲載を行っています。2022年度は下記の大会等において掲載しました。



パートナーおよび支援団体ロゴ入りの横断幕 (最新版デザイン)

大会プログラム等に掲載する紹介ページ (最新版デザイン)



2023年3月 第20回全日本知的障害者サッカー選手権大会'23 チャンピオンシップ

2023年2月 第20回 アクサ プレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権 FINALラウンド

2023年1月 第17回 ロービジョンフットサル日本選手権／第20回 アクサ プレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権 準決勝ラウンド

2022年12月 第20回 アクサ プレイブカップ ブラインドサッカー日本選手権 予選ラウンド／JIFFインクルーシブフットボールフェスタ2022

2022年11月 第20回CPサッカー全日本選手権／第11回日本アンパティサッカー選手権大会2022／第4回ソーシャルフットボール全国大会

2022年7月 第12回全日本ろう者フットサル選手権大会／インクルーシブフットボールフェスタ広島2022

2022年5月 第28回電動車椅子サッカー日本選手権大会2022／第6回パワーチェアフットボールチャンピオンシップジャパン2022／第七回 レオピン杯 Copa Amputee

2022年4月 第16回 ロービジョンフットサル日本選手権

2023年度提供可能な研修プログラム

【研修】

競技や障がい特性を活かした研修プログラムにより、コミュニケーションやチームビルディング等の研修の実施が可能です。2022年4月からはeラーニング研修「サッカーを通じた障害理解」(全70分)の提供を開始しました。障がい特性や接遇など基礎知識を学べます。



【体験】

障がい者サッカーを体験、または障がい者と一緒にプレーし、障がいへのイメージ等が変化することを目指します。



【講演】

障がい者サッカーの選手や団体関係者等が、競技や障がい理解、障がい者を取り巻くスポーツ環境等をテーマに講演。オンラインでの実施も可能です。



JIFFパートナー制度およびご支援について

JIFFパートナー制度や法人寄付、その他ご支援については、右記よりお問い合わせください。また、各種障がい者サッカー研修等の実施についても、お気軽にご相談ください。

お問い合わせ先

一般社団法人日本障がい者サッカー連盟 事務局

TEL 03-3818-2030 MAIL jiff_info@jfa.or.jp

WEB <https://www.jiff.football/join/partner/>

パートナー企業／支援団体／助成団体一覧

公式ユニフォームサプライヤー



アディダス ジャパン株式会社

支援団体



一般財団法人日本サッカー後援会

JIFFパートナー



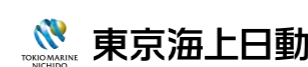
株式会社オープンアップグループ



クオールホールディングス株式会社



住友ベークライト株式会社



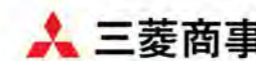
東京海上日動火災保険株式会社



日本マクドナルド株式会社



ビーウィズ株式会社



三菱商事株式会社

賛同パートナー



FBモーゲージ株式会社



株式会社協同



株式会社
クリエイティブヘッズ



デル・テクノロジーズ
株式会社

教育コンテンツ開発パートナー



株式会社マネジメントソリューションズ

インクルーシブ教育プログラム事業協賛



中外製薬株式会社



リコーリース株式会社



株式会社インフォマート



株式会社オフィーナクレア

サプライサービスパートナー



共和ゴム株式会社



株式会社PR TIMES



株式会社
マネジメントソリューションズ



株式会社吉岡



learningBOX株式会社

メディアパートナー



「ゲキサカ」株式会社談話社が
運営するデジタルサッカーメディア

アライアンスパートナー



公益財団法人
日本ケアフィット共育機構
そと、きつと、あんしんを。
公益財団法人
日本ケアフィット共育機構

協力協定



Para Football 財団

助成団体

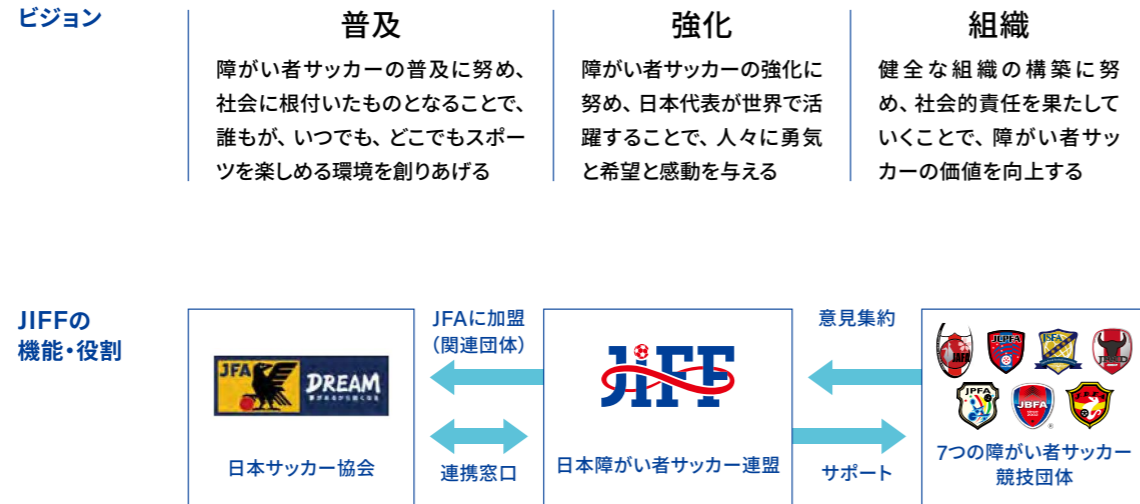


日本財団HERO's

JIFF概要

JIFFはJFAの関連団体で、JFAと協働し、7つの障がい者サッカー競技団体の活動をサポートする中間支援組織です。

理念 広くサッカーを通じて、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツの価値を享受し、一人ひとりの個性が尊重される活力ある共生社会の創造に貢献する



名称 一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟
Japan Inclusive Football Federation

設立 2016年4月1日

役員

会長 北澤 豪
副会長 田中 賢二(一般社団法人 日本ろう者サッカー協会)
前鼻 啓史(特定非営利活動法人 日本アンパティサッカー協会)
専務理事 松田 薫二(公益財団法人 日本サッカー協会)
理事 井口 健司(特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会)
佐々 毅(特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会)
神 一世子(一般社団法人 日本CP サッカー協会)
鈴木 宏和(特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟)
日比野(田中) 暢子(桐蔭横浜大学)
山木 譲(一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会)
監事 樽本 哲(弁護士)
奥村 武博(公認会計士)

社員構成

特定非営利活動法人 日本アンパティサッカー協会
一般社団法人 日本CP サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会
特定非営利活動法人 日本知的障がい者サッカー連盟
一般社団法人 日本電動車椅子サッカー協会
特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会
一般社団法人 日本ろう者サッカー協会

所在地 〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

公式サイト <https://www.jiff.football>

公式SNS

Facebook <https://www.facebook.com/jiff.football/>
Twitter https://twitter.com/JIFF_Football
Instagram https://www.instagram.com/jiff_football/

障がい者サッカーに関する相談窓口 **03-3818-2031**(平日10:00~17:00)

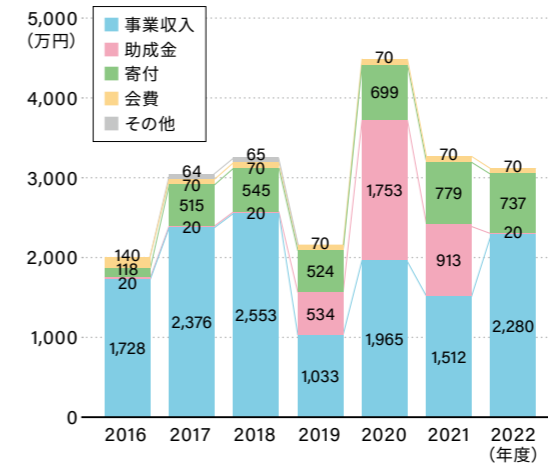
財務報告

2022年度は、新型コロナウイルスの影響を受けていた本連盟の社員である障がい者サッカー7競技団体が主催する大会等の開催が戻り、国際大会・国際親善試合も多数行われました。本連盟主催事業も対面とオンラインを併用し、事業を進めることができました。収支については、助成金収入が減少しましたが、新たなパートナー企業および事業協賛企業を迎え、ファンドレージング等収入が増加しました。中期的に収益源

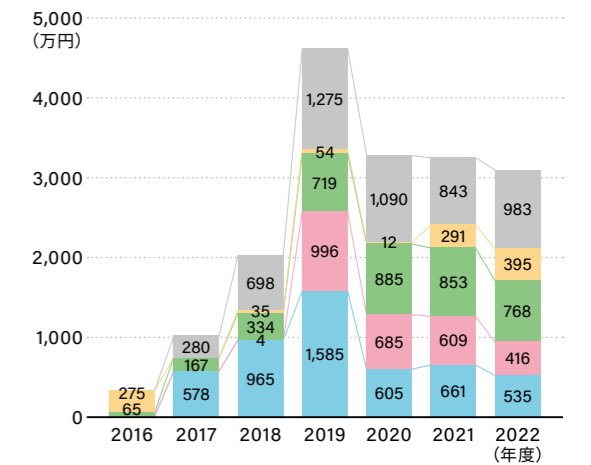
の分散を図り新規事業を推進してきたことによるもので、教育や地域連携の事業を自走させることができました。

2023年度は、引き続き不透明な経済状況が予想されますが、障がい者サッカー日本代表活動におけるJFAとの連携強化、自治体との連携強化、パートナー制度およびアクティベーションの充実など、皆様のご支援により財源の一層の安定化を図り、共生社会の実現に向け事業を展開していきます。

収入推移



事業別支出推移



活動計算書

2022年4月1日～
2023年3月31日

科目		金額
経常収益	受取会費	700,000
	正会員受取会費	700,000
	受取寄附金	7,373,053
	受取助成金等	200,000
	受取国庫助成金・受取民間助成金	200,000
事業収益	組織基盤強化事業収益	6,987,001
	コミュニケーション推進事業収益	2,495,668
	フットボール連携事業収益	2,494,120
	コンテンツ開発事業収益	3,057,182
	ファンドレージング等収益	7,763,334
	その他の収益	495
経常収益計		31,070,853
経常費用	事業費	4,057,380
	人件費	4,057,380
	その他経費	17,083,948
	管理費	4,073,068
	人件費	4,073,068
	その他経費	5,758,628
経常費用計		30,973,024
当期経常増減額		97,829
税引前当期正味財産増減額		97,829
法人税、住民税及び事業税		70,000
前期繰越正味財産額		36,197,654
次期繰越正味財産額		36,225,483

(単位:円)

貸借対照表

2022年3月31日現在

科目		金額	科目		金額
資産の部	流動資産	現金預金	48,040,910	負債の部	流動負債
		貯蔵品	466,667		未払金
		立替金	198,000		未払法人税等
		未収入金	1,551,000		未払消費税等
		前払費用	905,500		預り金
	流動資産 計		51,162,077		前受収益
					13,822,500
資産の部 合計			51,162,077	流動負債 計	
					14,936,594
				正味財産の部	前期繰越正味財産額
					36,197,654
					当期正味財産増減額
					27,829
				正味財産の部 合計	36,225,483
				負債及び正味財産 合計	51,162,077

(単位:円)

第三者評価について

JIFFでは、適切な情報開示と透明性の確保を目的に公益活動に関する情報公開の推進や評価・認証を行う一般財団法人非営利組織評価センター(JCNE)による第三者組織評価を受け、2020年10月29日付でベシック評価基準23項目において基準を満たしている評価をいただきました。



個人で応援できること



「JIFFサポート会員」になる

サッカーを通じた共生社会の実現に向け、
活動のサポーターとなる個人の継続寄付会員

日本障がい者サッカー連盟（JIFF）は、個人の継続寄付会員制度として「JIFFサポート会員」を募集しています。月1,000円からの入会が可能であり、いただいたご寄付は、すべて7つの障がい者サッカーの普及・発展および共生社会の実現に向けた活動に充てさせていただきます。

JIFFサポート会員特典

- JIFF年次報告書（毎年8月頃に送付）
- JIFF主催イベントの優先申込権 ほか
- JIFFノベルティグッズ

※特典は変更となる場合がございます。



▶ 入会方法・詳細

<https://www.jiff.football/special/kifu-2021/>



Tポイントで寄付する

聴覚障がい者のスポーツ参画を応援する

聴覚障がいの場合、聞こえないまたは聞こえにくいことを除けば健常者と変わらないにも関わらず、情報保証がなされないことで指導者や審判員としてのチャレンジを断念しなければならないことが多くあります。本寄付金は、JIFFの「手話通訳費用補助制度」により、講習会や研修会の手話通訳費用に使用されます。1円からの寄付、Tポイント1ポイントからの寄付が可能です。



▶ ご寄付のご案内

<https://www.jiff.football/join/support/>



読み終えた本で寄付する

障がい者サッカー全体を支援する

不要になった古本やDVD、ゲーム、デジタル家電等を寄贈していただき、その買い取り額相当がJIFFに寄付される仕組みです。古本買取専門店「本棚お助け隊」が提供するファンディング支援プログラムであり、回収用のダンボールは無料で、ゆうパックで全国無料集荷も可能です。また、郵便局やローソンから気軽に発送できます。



一般社団法人
日本障がい者サッカー連盟

ANNUAL REPORT 2022

年次報告書2022／2023年7月発行
©2023 Japan Inclusive Football Federation